

# 里見 雄二 小伝

Yuji Satomi



里見雄二氏は、明治23年（1890年）10月大分県竹田に出生、大正6年東京帝国大学工学部造兵学科を卒業、早稲田大学の助教授を経て、大正8年大倉商事株式会社に入社、暫くドイツに駐在し欧米諸国の産業調査にあたった。昭和3年日本パーカライジング株式会社の設立創業に参画し、同16年より38年迄取締役社長を勤めた。

会社創立当初は米国よりの導入技術に頼ったが、技術交流の絶えた戦時体制下に独自の技術開発を行い、化成処理の総合技術を確認した。その用途は鉄鋼製品の防錆のみでなく、深絞り、引き抜き等強度冷間加工の潤滑にも採用され、アルミ、亜鉛、マグネシウム等の非鉄金属にも応用された。

昭和20年、全国十数箇所の加工工場、製薬工業が各々1箇所を残して全焼し終戦を迎えた。氏は不撓不屈の信念を持って、戦災によって多大の損失を被った産業界には益々この技術が必要であることを痛感し、生産再開に全力を傾注した。その結果鉄鋼、自動車、機械、電気機器、建築器材等の分野で表面処理技術が広く採用され、今日わが国産業界の飛躍的な発展に貢献した。昭和30年後半西ドイツから浸炭、窒化の熱処理技術を導入し機械部品の品質の向上、製造コストの低減に寄与し、国内及び輸出産業の発展に貢献した。里見氏の経営理念は産業の発展に不可欠であり、地球上に限りある金属資源を保護し節約することが信条であった。

氏は企業経営の外に揺籃期の金属表面処理協会及び日本熱処理技術協会の理事、副会長として業界発展のために献身的な努力をした。また、昭和31年財団法人里見奨学会を設立した。その趣旨は理工系学科を専攻する学生で、学業優秀、品行方正、身体強度であるが、経済的理由により修業困難な者に対し、奨学援助を行い社会に有用な人材を育成するとともに、学術研究団体等に対する助成を行い、国家社会に貢献することを目的とした。平成16年度迄に在生学生を含めて大学生約2,400名に奨学金を給付し、人材の育成に寄与している。これらの功績により黄綬及び紺綬褒賞を授与された。昭和57年9月24日、里見氏は92才の天寿を全うされた。

里見奨学会は平成3年、本会に対して金属の表面処理に関する研究に顕著な事業を挙げた会員および共同研究者を表彰するための資金提供を申し出た。本会は平成4年2月の理事会において里見賞の設定を議決し、平成4年度から表彰を行うこととした。